岡山県立博物館だより

11号
3月2日
1978

「成人大学講座」について

館長　安藤和昌

「岡山県の歴史と文化を博物館の資料に触れながら学習する」というのが，本館で開催した成人大学講座の基本的な趣旨であった。外部からの講師も依頼したが，博物館の資料を熟知している学芸員のそれぞれの専門分野を中心に講義テーマを定めた。館内における講義にとどまらず，2回の現地見学を含めるなどバラエティーも考慮した。原則として全期間出席できる一般成人を対象に参加者を募集した。県内の公民館その他への掲示，新聞・テレビによる紹介などの広報の結果，約1か月の募集

期間に116名の応募者があり，第1回の試みなので反応について多少の不安を抱いていた我々の予想以上のものであった。地域的には県内全域にひろがり，年齢の不明な7名を除く，男女別・年齢別の希望者は次表のとおりである。

性別＼年齢	80代	70代	60代	50代	40代	30代	20代	10代	計
男	3	20	18	7	9	0	2	1	60人
女	0	2	7	11	21	5	3	0	49人

毎週金曜日の午前10時から午後3時にわたって，受講のための時間が確保できる年代別の状況がわかって興味深く，男性では第一線を退いた60～70歳代，女性では子供の養育の責任から解放された40～50歳代が，それぞれ65％近い数字を示している。定員を50人に限定していたので，無作為の抽せんにより男女各25名を決定した。

11月25日の最後の1時間を反省会にあて，その時の話題を事前にまとめるために，11月8日にアンケート用紙を配布し，25日に回収整理した。主要な質問と回答数を次に掲げる（回収数36）。①7日間10項目の適否……適当24　②古代・中世・近世・博物館などの講義の組合わせの適否……適当26　③今年は金曜日に講義したが他の希望曜日・時間があるか。（他の希望曜日がなければ，回答しなくてもよいと判断された為，回答数が少なかったが，圧倒的に金曜日が支持された。女性は，日曜日は家庭から解放されにくいので駄目の意見もあった）④来年度，同様の講座が開催されたら受講を希望するか……希望する35　今後希望する講義題目の質問に対しては，岡山県の歴史と文化の各時代・各分野について多種多様の希望が出された。

当博物館における第1回成人大学講座を総括的に見て，成功裡に終わったことを非常に喜んでいる。2回の現地見学がいずれも晴天に恵まれ，吉備路を散策して古墳を訪れ，備前焼のルーツを古い窯跡に探った時など，会員内から選ばれた世話係の人々の努力と相まって，まことに和気あいあいたるムードであった。受講者の多様な要望の中から適切な講義題目をえらび，テキスト以外の参考資料もできるだけ事前に渡して会員の予習の便をはかり，質問・討議の時間を設定して内容の深化をはかるなど，今年の反省の上に立って改善すべき点も色々考えられる。ともあれ，社会教育施設としての博物館の重要な活動の一分野である成人大学講座が，一層充実した講義内容と多くの参加者の支持とによって，着実に発展して行くことを期待しているのである。

学習内容

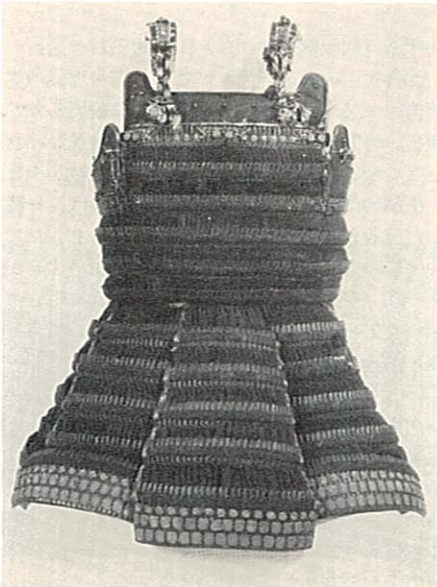
テーマ	講義・見学	日時	講師
古代の吉備	吉備国と耶馬台国	10月7日	岡山理科大学 教授 鎌木義昌
	よろいとかぶと	10月7日	岡山県立博物館 〃 主事 臼井洋輔
	吉備の首長墓めぐり(現地見学)	10月21日	〃 学芸員 栗野克己
中世の社会と美術	庄園と武士	10月28日	〃 主任 三好基之
	備前焼の歴史と鑑賞(現地見学)	11月11日	〃 学芸課長 浅原 健
近世の学問と文化	古川古松軒	11月18日	〃 主任 竹林栄一
	岡山の人と書	10月14日	〃 主任 三好基之
	岡山の洋学	10月14日	津山郷土館長 下山 練
博物館とその役割	博物館の仕事	11月25日	岡山県立博物館長 安藤和昌
	収集と研究	11月25日	〃 学芸課長 浅原 健

研究ノート

赤木家甲冑調査中間報告

1, はじめに

このたび倉敷市赤木制二氏から思いがけもなくほぼ3領分18点に及ぶ甲冑関係資料の寄贈申し込みを受けた。それらの甲冑は，仮補修しながら調査を進めるにしたがい，次第に貴重な特徴のあることが明らかになってきた。そこで，赤木家の甲冑資料の紹介とその主なものの主な特徴をここに中間報告しておきたい。



紫絲威腹巻

2. 資料名

紫絲威腹巻	1領
紫絲素懸威最上腹巻	1領
日の丸2枚胴具足	1領
鎧櫃	2合
鉄錆地12間阿古陀形筋兜	1頭
黒漆塗金箔押4枚張鉄板2段鞠桃形兜	1頭
黒漆塗6枚張突盔型頭形兜	1頭
鞠（頭形用植毛1枚鞠）	1口
色々威大袖	1隻
喉輪	2懸
曲輪	1懸
鐙	1対
その他	4点

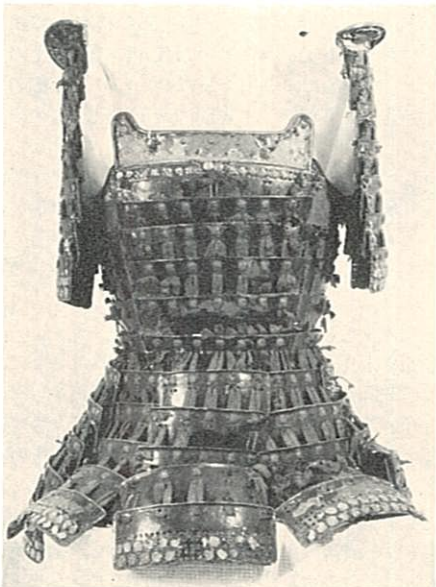
3. 内　容

(イ) 紫絲威腹巻

胴高29.0cm，草摺7間5段下がり26.5cm，最小胴周73.0cm，威絲は絹で色は小豆茶系紫。全体がきりっとしまり，サイズとしては腹巻の中でも小さい。小札は1寸（3cm）に胴部で5.5枚，草摺部で4.5枚を数える。札足は胴部で5.5cm，草摺部で6.5cm，札穴13個，全部に縦の札撓がある。全体の横撓は草摺部で下2段は左右に中心，上3段は中央に中心がある。菱板の下角も丸味を帯びず，緯は草摺のみに見られ，それは革製であり，いずれもきりっとさせながら足掻を非常に重んじ，古式の形態を保っている優品といえよう。金物は入八双で透かし彫り，小桜鋲は本桜彫りで高さ3mmと低く，全部で31個（同形式の遍明院蔵重文藍韋威肩白腹巻では3mmで31個だが小桜の形が五稜角毛びき桜への移行形式に退化）。その他鉄交ぜの配列も健全で，生であることを裏付けている。これらの個々の時代的特徴は遍明院の腹巻と比較して，それよりも時代的に降るとする要素は今のところ見当たらないのである。さらに付け加えるならば，遍明院の腹巻は肩白部分の威絲を後補していることはさておいても，小札の鉄交ぜの点で，紫絲威の方が配列に乱れがないのである。そして時代と共に，配列場所として背面へも鉄小札が交ぜられる傾向をもつと私は考えているが，背面に全くないのも赤木家の特徴と言えよう。

(ロ) 紫絲素懸威最上腹巻　壺袖1双付

胴高29.0cm，草摺7間5段下がり26.5cm，最小胴周77.0cm，壺袖高さ7段下がり32.5cm，同上幅27.0cm，下幅19.0cm。素懸威絲は絹で色は小豆茶系紫。板札捻り返しは草摺で上下左右，胴は下のみ，袖は上のみにある。中でも大きな特徴は草摺の板札がほぼ逆台形で，7間5段35枚の全部について同寸法のものが見当たらない（mm計測）。戦闘が激しくなり，かなり急いだ仕事であろうか。小桜鋲は高さ2mmで27本あり，五稜角への移行形式に簡単な毛がきがあるのみ。



紫絲素懸威最上腹巻

(ハ) 日の丸二枚胴具足

胴高35.0cm，最大胴周97.0cm。鉄板5枚を横矧ぎ鋲締めにし，トノコ状のもので全面固め，その上を革で包み1枚に見せている仏胴である。その上にさらに黒漆を塗り，そのまた上に径23.5cmの日の丸を金箔押しで配している。背には径27.0cmの日の丸。草摺が全く欠け綿噛が胴と同制に製し，いわゆる金胴かとも思わせるが，初期の具足のようである。鵐目の穴には歯車状の座がついている。

(ニ) 鉄錆地12間阿古陀形筋兜

兜鉢高さ18.0cm，同前後径27.5cm，同左右幅28.5cm。天辺の穴2cm，兜鉢重量660g。いわゆる典型的阿古陀の形が素直に表現されている。響の穴が4個，腰巻からわずか2.5cmのところにある。これは時代が降ると上方に移るようだ。縦矧ぎ板の重なりもふもとで6mm，捻り返しを少しつけてそれで筋を作っている。当時の戦闘形態を物語るものか，鉄板も非常に薄く鍛造されて軽量造りとなっている。どうやら，この兜には板2枚鞠，プラス包革2枚鞠の4枚鞠であった可能性大の形跡がある。

(ホ) 黒漆塗金箔押4枚張鉄板2段固定鞠桃形兜

兜鉢高さ18.0cm，同前後径27.5cm，同左右幅28.5cm，兜鉢重量780g。横板重なり1cmでその部分に捻り返しなく塗りつぶし，縦中央板重ねは突き合わせ鑢付けか。鍬形取付台も2爪のものがついている。

(ヘ) 黒漆塗6枚縦張り突盔型頭形兜

兜鉢高さ17.0cm，同前後径25.0cm，同左右幅21.0cm，兜鉢重量740g。突盔形とも椎実形とも言い切れず，かと言って越中頭形とも日根野頭形ともできない特異な形である。ふもとの重なり7mm。これには板2枚素懸鞠を改造したと考えられる吹き返し付き1枚板植毛鞠が付いていたことが判明した。

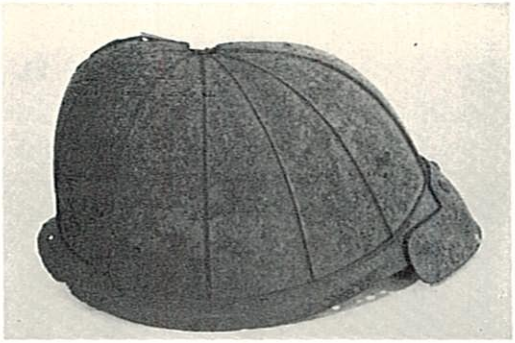
(ト) その他

線刻の絵が全面にある柄香炉の柄らしきもの。一番上段しか鉄交じりのない大袖1隻。遍明院のものと工人が同じではないかと思われるような喉輪。紋のある鐙等々興味あるものが，今後の本調査を待っている。

4. おわりに

補修しながら赤木家の甲冑を調査しているうちに色々な特徴が浮かび上がってきており，中でも紫絲威腹巻や阿古陀形兜に関する特徴の多くは，それぞれのタイプの原型をよく保持し，なおかつ室町時代という高度な経済成長社会の一面の姿をうつし出していると思う。これらは遍明院蔵のものとの比較においても，時代的に遜色がないと思われた。時代，地域，戦闘様式と甲冑の関係を理解するために，宇治穴田の重文赤韋威大鎧を所蔵する赤木家との詳しい関係や，その時代の前後の甲冑を比較研究し，近い機会に，その課題に応じてみるつもりである。

(臼井洋輔)



鉄錆地12間阿古陀形筋兜

黒漆塗金箔押4枚張桃形兜

黒漆塗6枚張突盔型頭形兜

**新収蔵資料の紹介 (昭和51年度分) **

1	小沢芦庵自筆書簡	1巻
2	浦上春琴，武元登々庵等詩画巻	1巻
3	華岡流外科手術図	58枚
4	山樵道具一括	27点
5	打　掛	1領
6	生活用具，錦絵	17点
7	成形図説	30冊
8	備前焼置物「獅子に鍾馗」	1個
9	柴田義董筆「妓女図」	1幅
10	絵巻断巻，吉備大臣入唐絵巻，法然上人伝法絵	2幅
11	太刀　銘「雲次」	1口

全国高校総体協賛特別展

52.7.22～8.21

昭和52年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）は8月1日から8月20日まで，岡山県を中心会場と

して開かれた。当館でも，これに合わせて，「岡山県の歴史と文化」と題して協賛特別展を開催した。この特別展では，インターハイに参加する全国からの高校生の皆さんに，先土器時代から現代に至る岡山県の歴史と文化の概観を理解して帰っていただくことを目的として，出来得る限りよく知られた資料を選択して展示した。第1室では，先土器時代から古墳時代をとりあげ，県内出土の各時代の遺物によって古代吉備国形成の過程を，第2室では，奈良時代から室町時代の岡山県を，「律令制と吉備」，「吉備氏と和気氏」，「荘園と武士」，「栄西と法然」，「備前焼と備前刀」，「戦国の世」などのテーマで概観した。第3室では，江戸時代，明治時代を「備前藩」，「岡山の洋学」，「玉堂と良寛」のテーマで紹介し，民俗部門では特産の花莚の歴史を「錦莞莚」の創始者，磯崎眠亀の紹介と，花莚立機の実演（早島町，信木和馬氏）によって展示した。また第4室ではテーマ展，「広瀬臺山とその文人画展」を開催し，美作の生んだ江戸時代の文人画家広瀬臺山を紹介した。

なお7月31日の午後には皇太子ご夫妻，浩宮の三殿下が本館に行啓になり特別展をご覧になった。（写真参照）

昭和52年度特別展

「岡山の人と書」を終って

開館以来，「岡山のやきもの」・「岡山県の絵画」・「岡山の中世」・「岡山県の原始古代」・「民具」・「岡山の洋学者」と毎年特別展を企画してきたが，本年度は「岡山の人と書」をとりあげてみた。

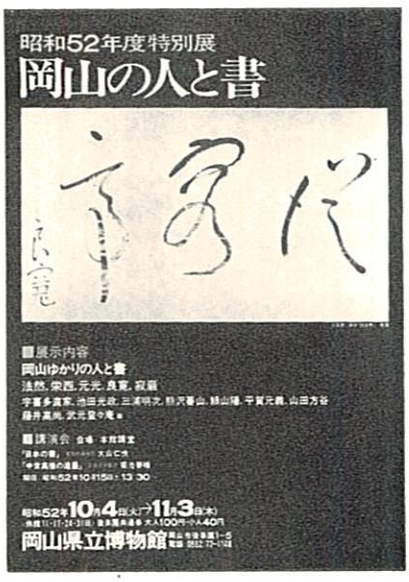
「書は人なり」とは，古くからいわれてきた格言である。平安時代から江戸時代の終りまで，それぞれの分野で多くの功績を残した人々を，書を通じて偲んでみようと意図したものである。

会期は，10月4日から11月3日まで。展示品数は57件。うち重要文化財6件。とりあげた人物は27人。これを，①中世高僧の書（栄西・法然・寂室元光），②近世大名藩士の書（宇喜多秀家・池田光政・小堀遠州・森忠政・三浦明次・熊沢蕃山・長尾勝明・斎藤一興・太田牛一），③学者文人の書（本阿弥光悦・寂蔵・湯浅常山・澄月・良寛・頼山陽・浦上玉堂・浦上春琴・平賀元義・藤井高尚・木下幸文），④幕末儒者の書（仁科白谷・武元登々庵・武元君立・山田方谷）にそれぞれまとめた。勿論，この分類は便宜的なものであり，とりあげた人物も，必ずしも厳密な意味で岡山県人ということではない。例えば，頼山陽は広島の人であるが，その交遊関係は山陽道の文人と深く，今度展示した「小沢芦庵書簡識語」は，京都の歌人小沢芦庵から倉敷の歌人藤井機園に宛てた書簡の識語であり，岡山に極めて関係の深いものである。また太田牛一自筆本「信長記」は，岡大池田家文庫に蔵されるもので，近年重要文化財に指定されたのを期に，広く紹介したものである。

また，人物のとりあげかたも，代表的人物すべてにわたっていない。例えば，岡山藩主池田家にも，光政の他に，綱政・治政など見るべき能書家があり，津山藩でも松平確堂は，大名としてはすぐれた書き手であったといえよう。熊沢蕃山と並んで有名な津田永忠については，内容決定締切までに作品を発見出来なかった。このように種々の理由から，残念ながら割愛した人物も決して少なくはないのであり，今後，常設展示などで，その欠を漸次補ってゆかねばならない。

今回の展覧会で特筆すべきことは，美作高田（現・真庭郡勝山町）出身の寂室元光の墨蹟を展示出来たことである。寂室元光の履歴については類書に譲るが，その墨蹟は，その詩偈とともに，室町期の代表的な作品といわれている。本館では，先に「岡山の中世」展で，元光の墨蹟「付衣偈」（重要文化財）を展示したが，今回，元光示寂の地近江（滋賀県）永源寺の特別のお計らいによって，「山号」・「詩偈（風攪飛泉）」（重要文化財）・「尺牘（華蔵房宛）」（重要文化財）・「遺誡」（重要文化財）を展示することが出来た。元光の墨蹟の主要なものは，これでほとんど岡山で公開されたことになる。

（三好基之）



テーマ展

備前の釉陶

—閑谷焼，虫明焼，宇野津焼—

52.5.17～7.17

岡山の民窯シリーズとして，備中酒津焼展につづいて備前の釉陶展を行い約120点を展示した。つぎにその概要を記す。

1. 閑谷焼　備前市木谷

閑谷窯は備前藩の藩窯で元禄年間に池田光政が津田永忠に命じて築窯したものである。焼成物としては閑谷黌の備前焼の屋根瓦と釉陶の閑谷焼がしられる。また元禄13年銘瓦があり，この瓦を焼いた後の窯で閑谷焼が作られたのであろう。閑谷焼の釉陶の技術を継承したといわれる「白備前」が生まれたのが正徳年間（1711～1715）である。したがって，閑谷焼は元禄の終末から宝永年間（1704～1710）の短期間に僅かに作られ，作品も少ない。窯跡から採集された陶片の中に青白色の磁器があり，本県最初の磁器として注目される。閑谷焼の作風は京都の陶工によって製作されたといわれ優美華麗である。

2. 虫明焼　邑久郡邑久町虫明

伊木家蔵帳に「文政二年九月虫明新焼」の記録があり，すでに窯のあったことが知れる。旧来の窯を瀬戸窯といい新窯を池奥窯という。文政2年（1819）を新窯の開かれた時期と考えてよい。虫明焼については，備前藩家老伊木忠直はじめ伊木三猿斎が茶人として情熱を傾け，茶陶，雑器の釉薬ものを焼いた。弘化4（1847）年伊木氏は間口窯を開窯し京都から陶工を招き，京焼風の作品をつくらせた。陶工には，京都から清風与平，真葛宮川香山，真葛長造などが来窯し，地元では森葛雄，森香州，岡本英山，森香宝などがいた。

3. 宇野津焼　（柁（かじ）山焼）倉敷市宇野津

宇野津村名主梶田伝左衛門，藤左衛門のお庭焼としてはじまり，小窯（径2m）と大窯からなる。開窯時期は明らかでないが，嘉永5年銘の鉢があり幕末の短期間と思われる。作品は赤絵，染付，甕等の釉陶を焼き，周辺の住民に愛用されたものであろう。　（浅原健）

虫明焼掛け分け徳利

テーマ展

「岡山県の鎧と兜」

52.3.18～5.15

岡山県に所在する主な甲冑を集めて古墳時代から近世に至る工芸技術の一部を紹介した。

出品目録　（◎印は重要文化財）

1.	佐の山古墳出土短甲	古墳時代	岡山大学
2.	月の輪古墳出土短甲はにわ	〃	月の輪郷土館
3.	八幡大塚出土挂甲	〃	文化庁
4.	◎赤韋威大鎧大袖付	平安時代	赤木猛夫
5.	◎色々威大鎧兜大袖付	南北朝時代	豊原北島神社
6.	黒韋威大鎧袖付	〃	牛窓神社
7.	◎紺絲威胴丸兜大袖付	〃	岡山美術館
8.	◎藍韋威肩白腹巻	〃	遍明院
9.	紫絲威腹巻	室町時代	赤木制二
10.	紫絲素懸威胴丸	〃	藤田始
11.	紫絲素懸威腹巻	〃	赤木制二
12.	朱塗伊豫札縫延胴具足	桃山～江戸時代	藤田始
13.	金銀片身替威具足	〃	藤田始

兜は赤韋威星兜，阿古陀形筋兜，阿古陀形黒漆練筋兜，頭形兜鉢，色々韋村濃威雑賀兜，黒漆塗桃形兜。その他出陣の図，旗差し物，轡，三繋等々が北島神社，牛窓神社等から出品された。　（臼井洋輔）

昭和52年度重要文化財の公開品目

本館は昭和50年度から中国・四国9県を対象とした文化財保護法第48条の規定による国の勧告承認出品館として活動している。本年度の勧告承認はつぎの9件である

1.	◎絹本著色仏涅槃図	1幅	浄土寺	尾道市	勧告
2.	◎絹本著色十二天像	12幅	長福寺	英田町	勧告
3.	◎色々威甲冑	1領	豊原北島神社	邑久町	承認
4.	◎藍韋肩白腹巻	1領	〃	〃	〃
5.	◎絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1幅	〃	〃	〃
6.	◎絹本著色地蔵十王図	1幀	日光寺	笠岡市	〃
7.	◎絹本著色十五図	10幀	宝福寺	総社市	〃
8.	◎紙本著色花鳥図	1隻	妙覚寺	御津町	〃
9.	◎出雲玉作阯出土品	若干	玉作湯神社	玉湯町	〃

（浅原健）

テーマ展

「広瀬台山とその文人画展」

52.7.22～8.21

テーマ展は常設展示でとりあげることが出来ない特殊な部門や，常設展示のある部分を深く掘り下げることを目的に，年間数回行っている小展示である。津山の生んだ文人画家広瀬台山の作品と関連資料を展示した。特に今回は，台山の郷里津山に伝わったものが展示品の中心になった。総数26点。うち17点が，台山の弟上原簡貴斎の子孫の家に伝来したものである。台山については，「博物館だより」10号の「臺山廣瀬清風小伝」を参照されたい。なおこの「小伝」で，台山の生年を延享4年としているが，寛延4年に訂正する。　（三好基之）

津山の移動展

52.10.21～10.24

移動展は，本館の普及事業の一つとして，平常岡山市においでになる機会の少ない県民の皆さんに，本館の収蔵品の一部を観賞していただくものである。数年前，苫田郡鏡野町で行ったが，今年度は，津山市教育委員会・津山しんわ文化財団の要請によって，津山文化センター展示室で行った。期間がわずかである理由は，展示品の管理条件と職員の派遣能力によるものである。特に会場の温湿度の状況によって，展示期間はせいぜい数日間としなければならない。地方での完全な展示施設の設立が望まれるものである。

展示品は館蔵品のなかから優品を選んでこれに当てた。特にその地方に関係ある資料だけでなく，広く岡山県全体という観点に立って資料を精選した。展示品の一覧は次のとおりである。

テープカット

昭和52年度移動展出品目録

品目		資料名	量		時代
美術	1	紙本着色 風流陣図屏風	6曲1双		江戸時代
〃	2	紙本着色 法然上人伝法絵（大谷墓所）	1	幅	鎌倉末期
〃	3	同上（臨終）	1	幅	鎌倉末期
〃	4	絹本着色 大威徳明王像	1	幅	室町初期
〃	5○	絹本着色 宇喜多能家像（九峰宗成賛）	1	幅	大永4(1524)年室町
〃	6	紙本淡彩 茅亭青壁図（広瀬台山筆）	1	幅	江戸後期
〃	7	絹本着色 妓女図（柴田義董筆）	1	幅	江戸後期
〃	8	木版画 江戸一目図（鍬形恵斎画）	1	枚	江戸後期
〃	9	木版画 岸田吟香売薬錦絵	4	枚	明治初期
工芸	10	紫絲威腹巻	1	領	室町中期
〃	11◎	太刀 銘国行（作楽神社蔵）	1	口	平安時代
〃	12○	太刀 銘奉曽	1	口	室町初期
〃	13	納戸地高砂模様振袖	1	領	江戸後期
〃	14	花鳥蒔絵螺鈿小箱笥	1	合	江戸初期
〃	15	盤香具	1	面	江戸後期
〃	16	備前焼緋襷大徳利	1	個	桃山時代
〃	17	備前焼足付角鉢	1	個	桃山時代
書	18	紙本墨書 足利尊氏御判御教書（河野対馬入道宛）	1	幅	観応元(1350)年室町
〃	19	小早川秀秋知行状（木下信濃守宛）	1	幅	慶長5(1600)年江戸
〃	20	熊沢蕃山書状（三好宗甫宛）	1	幅	江戸初期
〃	21	大般若経（作州光禅庵刊）	1	巻	永和2(1376)年室町
考古	22	突線文銅鐸	1	個	弥生時代
〃	23	内行花文鏡（鶴山丸山古墳出土）	1	面	古墳時代
〃	24	家型蔵骨器	1	個	奈良初期

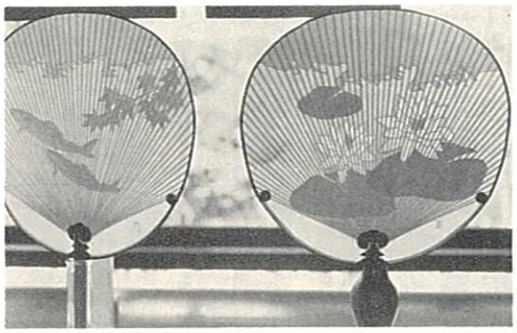
（三好基之）

◎印は国指定重要文化財　○印は県指定重要文化財

伝統を受けつぐ会

1. 撫川うちわ講習会（52.5.27～8.28）

撫川うちわの製作技術は本県の伝統的な竹と紙の工芸技術として保護保存されてきた。このたび，広くその技術を一般に普及し，振興するために岡山県無形文化財技術保持者の坂野香山さんと坂野定和さん，沖秀夫さんを招き撫川うちわの講習会を開いた。受講者は33名を数えた。女性26名，男性7名，中には京都や広島からの参加者もあった。技術の取得も講師がびっくりする程の人も出て，最後の展示会（8.23～28博物館2階ロビー）の時は力作ぞろいで，盛況であった。



撫川うちわ（受講生の作品）

2. 町並と民家をたずねる会　（継続）

第11回（4.17）「津山方面」立石，箕作家，旧高瀬舟船宿等。

第12回（5.8）「里庄，笠岡方面」岡崎，友保，仁科，久我家等。

第13回（6.12）「和気，閑谷方面」法泉寺，大国家，閑谷校等。

第14回（9.11）「久世，勝山，新庄方面」旧福島善兵衛邸，大倉，山谷家，新庄村町並，遷喬小学校等。

第15回（10.9）「東児島方面」三杉，家野，青山，伊丹家等。

第16回（11.20）「竜野方面」永富，新在，片岡，堀家等。

第17回（3.12）「竹原方面」竹鶴，吉井，頓家等。

（臼井洋輔）

岡山県立博物館だより　No. 11

発行日　昭和53年3月2日
発行者　岡山県立博物館
館長　安藤和昌
岡山市後楽園1－5
TEL（岡山）72－1148